

## 2013年のトビイロウンカ多発の要因

2013年秋、トビイロウンカによるイネの“坪枯れ”が県南部で広く見られた。秋の高温が本種の増殖を促し、坪枯れの発生につながったと考えられる。

### 内 容

予察灯では8月上旬までトビイロウンカの誘殺がなく、飛来量は平年より少なかった。農業改良普及センターの調査によれば、本田の発生は7月3日篠山市、7月25日丹波市、8月8日神戸市北区で確認されている。また病害虫防除員の報告では、8月中旬以降に発生ほ場が増加している。病害虫防除所が9月6日に県西部で行った調査では100株当たり成虫3.3、幼虫0.3頭で、この時点の密度は平年並みであった。“坪枯れ”は9月下旬から散見されはじめ、10月7日の発生ほ場率は約20%（県西部5市町平均）であった。



写真 トビイロウンカ幼虫（枯死寸前の株元）。  
2013年10月3日、加西市。

8月上旬までに発生が確認されたほ場は、“常発地”として知られる地域にあり、これら地域への飛来は7月上旬にあったと推察されるが、収穫時期の早いイネが主であったため坪枯れに至るところが少なかった（図－緑線）。一方、量は少ないものの7月下旬に県南部に広く飛来があったと推察される。その飛来後第2～3世代虫の生育期にあたる9～10月の気温は平年より1～4℃高く、発育シミュレーションからは1世代にかかる日数が平年より約10日短縮されるという結果が得られている。秋の高温が例年ないトビイロウンカの増殖を促し、9月中旬以降の急激な多発につながったと考えられる（図－赤線）。

### 普及上の注意事項

7月下旬以降飛来するウンカ類には、育苗箱施用薬剤の効果は期待できない。定期的な調査に基づく適切な本田防除を実施する。

八瀬 順也（病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）

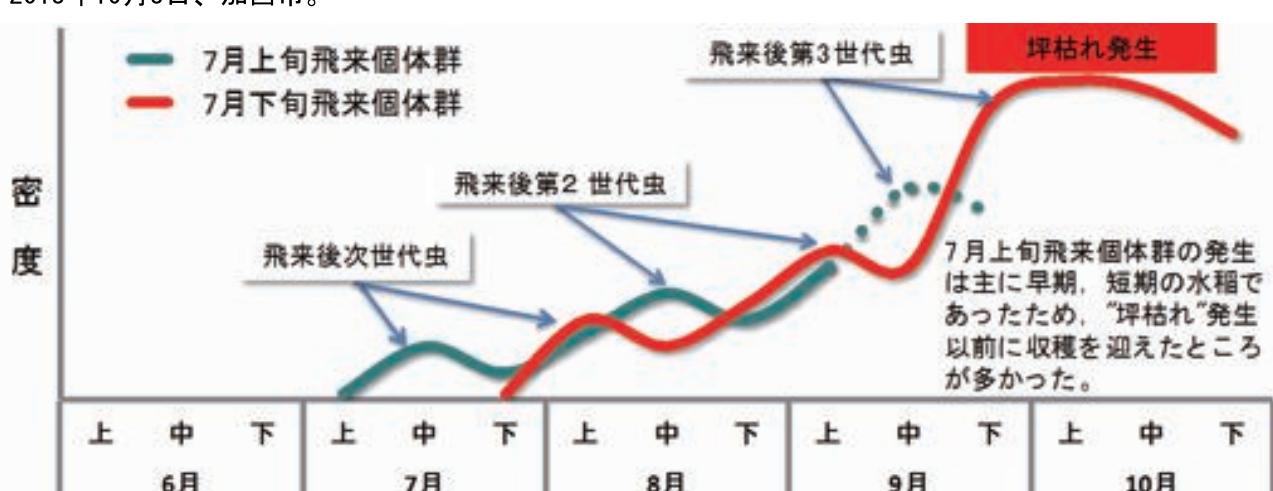


図 2013年のトビイロウンカ発生推移（模式図）